

## 平成18年度普通会計決算状況

単位:千円

	平成17年度	平成18年度	差引増減
歳入総額 (A)	104,185,818	97,763,173	6,422,645
歳出総額 (B)	100,885,445	91,324,382	9,561,063
歳入歳出差引額 (C)	3,300,373	6,438,791	3,138,418
翌年度へ繰り越すべき財源 (D)	317,550	297,235	20,315
実質収支 (C) - (D) (E)	2,982,823	6,141,556	3,158,733
単年度収支 (F)	2,982,823	2,227,293	755,530
積立金(財調) (G)	2,758,451	3,580,101	821,650
繰上償還金 (H)			
積立金取崩額 (I)	5,135,614	4,747,192	388,422
実質単年度収支 (F)+(G)+(H) -(I) (J)	605,660	1,060,202	454,542

津市の財政状況は、90年代の公共事業に伴う地方債発行による公債費負担と三位一体改革による地方交付税等の削減のなかで、多くの自治体が財政危機に直面している中、本市におきましても例外ではなく、歳出に占める経常経費の構成比率が高く、政策的経費等の臨時的な財政需要に対応できる財源が不足している状況にあります。

このような中で、平成18年度普通会計決算額は、合併後、新津市としての年間を通しての決算となり、歳入総額は977億6,317万3千円、歳出総額は913億2,438万2千円となりました。

この結果、歳入歳出差引額は64億3,879万1千円で、翌年度に繰越すべき財源2億9,732万5千円を差し引いた実質収支額は61億4,155万6千円となりました。

しかし、平成19年度当初予算において財政調整基金を約60億円取り崩していること、更に、平成20年度以降の財政運営を考慮しますと、平成18年度の決算剰余金を基金に積み立て、財政力を少しでも維持していかなければならないと考えております。

財政状況を表す指標で、経常収支比率は90.2%と対前年度0.4ポイントの減となっています。また、財政力指数は0.74と市税等の収入が増えたことにより対前年度0.02ポイント増加しているものの、財源不足を基金からの取り崩しで賄っている状況であります。

次に、実質公債費比率は15.9%と対前年度0.7ポイント増加しており、依然として公債費による財政負担が高くなっております。

## 【財政指標】

単位:%、千円

	平成17年度	平成18年度	差引増減
経常収支比率	90.6	90.2	0.4
財政力指数	0.72	0.74	0.02
実質公債費比率	15.2	15.9	0.7

## 【地方債】

地方債現在高	115,871,511	111,036,703	4,834,808
--------	-------------	-------------	-----------

## 【基金】

財政調整基金現在高	11,956,699	10,789,608	1,167,091
-----------	------------	------------	-----------